

ヴァランシエンヌのたくらみ（メリー・ウィドー）

物理学科1年 沖 香織

自分は「メリーウィドー」のレポーターを務めました。「ヴァランシエンヌはカミーユ・ドゥ・ロシヨンになぜ、ハンナ・グラヴァリと結婚するように言ったのか」について考察していきます。

ヴァランシエンヌはきっとこのパーティーにハンナが来ることをミルコ・ツェータ男爵から聞いていたのではないか。そして、その時にハンナには死んでしまった旦那の二千万フランもの遺産があることを知った。そこでヴァランシエンヌはそのお金をどうにかして自分のものにしたいと考えたのではないか。そこでヴァランシエンヌは二千万フランを手にするための方法を考えた結果、自分自身でお金を奪うために動いた場合、今ある、ツェータ男爵との家庭が壊れてしまう可能性が高くなると考えた。○そこでヴァランシエンヌは自分に好意を持っているロシヨンを二千万フランを手にするための道具として使おうと考えたのである。ヴァランシエンヌの考えた方法は以下のようなものだったと推理できる。

- ① パーティーの初めでロシヨンが本当に自分に好意を持っているか確認する。
- ② ロシヨンに自分も好意を抱いてはいるが、○「私は貞淑な人の妻」と伝え、男心に火を付ける。
- ③ ヴァランシエンヌに好意を抱き続けても、今の状況は変わらないからと、ロシヨンにハンナと結婚するように示唆する。
- ④ ○ロシヨンがハンナに言いよっているときに少し嫉妬をしているふりをして、「あんな命令をしたが、私は、あなたに好意を抱いているんだよ」とロシヨンに思わせる。
- ⑤ ロシヨンとハンナを結婚させる。
- ⑥ ヴァランシエンヌはロシヨンに、自分のところへ戻ってくるように、誘惑する。そして、ヴァランシエンヌは今男爵との関係が崩れ始めていると嘘をつき、ロシヨンと一緒にいる時が幸せだったと伝えて、ロシヨンとの仲を復活させる。ハンナの持っている遺産をどうにかしてロシヨン名義に変更することができないかとロシヨンに伝え名義を変えさせる。
- ⑦ 次に、ヴァランシエンヌは男爵と別れるという条件で、ロシヨン名義のものを自分の名義に変えさせる。

この計画が実行できるとヴァランシエンヌが思ったのは、ロシヨンのヴァランシエンヌへの気持ちがとても強いという自信があったため、最終的にロシヨンは2000万フランの名義を自分に変えてくれると思ったのである。

しかし、この計画のミスは、ヴァランシエンヌは、お金も男爵夫人の地位もともに手に入れられると考えたところにあるのではないか。

だが実際のところ本編では、この計画のようにはなっていない。なぜこの計画がうまく行かなかったのか。ヴァランシエンヌはハンナとダニロ・ダニロヴィッチ伯爵が昔恋人同士であったことは知っていた。しかし、ハンナとダニロヴィッチ両想いなにもかかわらず、別れたことを知らなかった。なので、ヴァランシエンヌの計算の中では、ハンナとダニロが復縁するということは、なかったのである。しかし、実際には、ハンナとダニロは、お互いに昔抱いていた感情が抑えきれなくなり、再び惹かれあっていたので、そこに、ロシヨンの入る隙間はなかった。かくしてヴァランシエンヌの計画は、成功しなかったのである。